

色葉匂へど【三】

歴史に想う事

ゲンさんの幻想

宮下 元

温故知新・融合の国

2019年フランスの世界遺産ノートルダム寺院が燃えてしまった。

世紀末予言で有名なノストラダムスと同じ名の寺院である。その予言はされてたのだろうか？原因は修復作業中の火の不始末と噂されている。

また、沖縄の那覇市の琉球首里城の正殿が簡単に全焼した。イベント用の配電盤の延長コードでの失火との可能性が高いという。消火設備が利かなかった。防災体制も対応できなかった。ともに、とんでもないことだ。大事な文化遺産が失われてしまった。

正殿建物より、中の琉球展示物が焼けたのが惜しい。日本は木の文化であり、火事が怖いのに。

◆正倉院は1300年前の遺物である。私はこの3年間、国立奈良博物館に正倉院展を見に行っている。

1300年前の物が、保存状態が良く直接見られる貴重な機会だ。

現物・現地主義の私としては、当面毎年行きたいと思っている。

東大寺正倉院は、光明皇后が寄贈した聖武天皇の遺品が中心である。

火災にも盗難にも遭わず、1300年間、虫食にも保存された。

日本ならではの継承気質である。昨年の展示では、円形木箱が素晴らしい。夜光貝を象嵌（ぞうがん）した螺鈿（らでん）細工である。

とても千年前とは見えない美しさ。

皮のベルトをしまうもので、青色の高価なラピスラズリ石が並べて嵌め込まれている。つまり、中央アジア由来の騎馬民族品が渡

来しているのだ。

◆保存できた理由は、

戦火・略奪が少なかったのもあるが、①校倉造りによる湿気管理。②避雷針や消火対策。③定期的な防災訓練。④櫃（ひつ）という、足付の木箱による防虫・防湿。⑤鍵・封印付の厳重管理。

⑥財産目録（判子だらけで改ざん防止）での管理。⑦年一回の棚卸チェックと陰干し。⑧定期的な修復・劣化対策、など。

そして、今進められているのは、現代最高技術でのレプリカ（模造）作成である。正倉院の琵琶のレプリカは素晴らしく美しい！

正倉院が残ったのは奇跡に近い。金額だけでなく、相当な保存努力が掛けられて来たと思う。

さて、この、日本の保存・継承気質とは一体何なのだろうか？

◆進取・融合・昇華・継承の気質

私は、日本人の特徴として

『進取↓融合↓昇華↓継承』文化（気質）だと思っている。

『進取』とは、好奇心と新しいものへの吸収である。

『融合』とは、従来の技術文化との融合である。古い文化も活かす。

『昇華』とは、最高への追求心。道（どう）とも呼ばれる。

華道・書道・茶道・武道・剣道・柔道・神道・・・などなど

大嘗祭・神社式年遷宮、能・歌舞伎・日本画・囲碁将棋・日本刀もそうだ。『美』や『術』の

追求にとどまらず、精神的なものを含めた追求心である。

『継承』とは、後世に残すこと、伝えること、である。秘伝書だけでは消えてしまう。広く伝える気質が重要だ。

逆に、大陸文化は『対立・略奪・皆殺し・入替』気質と言える。

この『温故知新』的文化は日本ならではのなろうか。地球環境保護・世界遺産保護や世界平和の為に、温故知新の融和的な精神が必要だ。多様性尊重とも言う。

日本文化よ頑張れ（加油）！

法隆寺への幻想

斑鳩寺の夢殿は怨霊鎮魂

正倉院展のついでに、今回は法隆寺・秋篠寺・薬師寺・唐招提寺

を廻った。中学の修学旅行以来である。法隆寺は世界遺産に相応しく、世界最古の木造建築である。

飛鳥時代以来ほぼ無傷に残ったのは奇跡だ。

中でも百済観音・救世観音像は、異風であり魅入ってしまう。

夢殿はお墓で、救世観音は聖徳太子の模写との説がある。明治

にフェノロサが夢殿を無理やり開けさせ包帯を外さなければ拝めることは出来なかったと思うと、

複雑な気持ちだ。つまり、法隆寺は、太子の怒り・崇りを鎮めるための鎮魂寺とのこと。

私もそう思う。まずは、先年亡くなられた梅原猛氏著『隠された十字架』をお勧めする。氏は

哲学者だが、歴史研究著書三部作で日本ペンクラブ会長をつとめ

られた。本は分厚く難しすぎるので、拾い読みでも構わない。

しかし、何故、太子は崇ったの

だろうか？徳の高い聖人（ひじり）なのに。実は、『徳』の漢字のつく人物・天皇には恨みを持った人が多い。安徳天皇、崇徳上皇、称徳天皇 など……

だるうか？徳の高い聖人（ひじり）なのに。実は、『徳』の漢字のつく人物・天皇には恨みを持った人が多い。安徳天皇、崇徳上皇、称徳天皇 など……

◆『いかるが』とは『怒る蘇我』法隆寺は別名『斑鳩寺』とも言われる。『鶺鴒寺』（いかるが）とも書かれている。鶺鴒（いかるが）とは、

三光鳥をさすとも謂われる。まだら模様（ハト）に似た鳥なのだろうか？ それとも角（つ）の、鬼

の角（つ）の生えた鳥なのだろうか？ 日本人はことば遊びが好きだ。

『いかるが』とは『怒る蘇我』の略ではなからうか？

『怒る蘇我』（いかるが）とはアナグラムで『蘇我入鹿』（そが）となる。つまり、聖徳太子＝入鹿 となる。

日本書紀からしたら全くもってありえない話だが……

◆馬子・入鹿は大王だったか

日本には、菅原道真の天満宮など崇り・怨霊退散の風習がある。記紀上では、『大神神社』（おおみわじんじゃ、奈良桜井の三輪山）

が最初の鎮魂・安寧祈願の神社である。寺では、法隆寺が実際の最初の鎮魂寺かもしれない。

私は馬子・入鹿は大王つまり天皇だったのではと疑っている。

大王入鹿は中大兄皇子（天智天皇：てんじ）と中臣鎌足（藤原氏始祖）に殺され王位を篡奪された。

そして、歴史書（天皇家系譜・記紀）からも抹殺された……

◆天武は入鹿の息子か
夢殿の裏隣の中宮寺には道を間違え拝観時間（4時半）に間に合わなかった。太子は『上宮』とも『法王』とも称される。『法』は仏法。

では中宮寺の『中宮』とは何か？ 誰を指すのだろうか？ 一説では、天武天皇だという。だとすると、天武は入鹿の息子かもしれない？

天武天皇陵は八角墳（八角墓室）である。新王朝は墳墓の形を変

えることが多い。夢殿は八角形で、天武朝系かもしれない。

そして、天武朝は称徳天皇の死で5世8代にて終了し、天智系に移ってしまった。

注：天武・持統天皇陵（檜隈大内陵＝野口王墓）：八角墳。耳成く藤原京の黄金ライン上。

◆天皇制を始めたのは天智天皇
天智天皇（大海人大兄皇子）は天皇制を発明（宣言開始）した。

天智天皇は秦の始皇帝を倣い、親政の律令制中央集権国家を目指したようだ。

彼は自らを始皇帝の末裔と内心で思っていたふしがある。

『八色の姓』という身分制度（貴族の位）を制定した。

◆一番筆頭を『真人』
（まひと）とし、自らの血筋一族と13氏族にしか認めなかった。

『朝臣』（あそみ・あそん）は2番目である。

最上位の『真人』とは、位ではなく、『最高の出身者』をあらわしている。『真人』を音読みだと『シンジン』で、真の人間つまり、『秦人』（または『神人』『辰人』）。

天武天皇の和風諡号は『天淳中原瀛真人』（アマノ ヌナハラ オキノ マヒト）だ。『真人』とは、始皇帝が一時、仙人の意味で自らの呼び名とした呼称（『朕』と

同等)である。

『瀛』は秦国王の氏族姓である。

法隆寺のなぞは、日本の根幹を揺るがす疑問だ。さあ、この無理難題に取り組もう。日本の夜明けの古代史に風穴を開けた梅原氏に敬意と感謝を込めて……

補足：『八色の姓』(ヤチノナニ)「真人、朝臣、宿禰、忌寸、道師、臣、連、稻置」である。

補足：唐の『元和姓纂』巻3・秦氏には、「サヤ、シ、瀛姓、秦後。伯益裔孫・非子、周孝王封之秦。隴西秦亭、是也。至始皇滅六国。子嬰降漢。子孫以国爲氏。」とある。

参考文献：

『失われたミカドの秘紋』加治将

一(かじまさかず)章伝社

『时空旅人 法隆寺 2020

54巻 3月号』

